
気付いたのは改札前だった

十六夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

気付いたのは改札前だった

【Nコード】

N8979Y

【作者名】

十六夜

【あらすじ】

朝、寝坊して慌てて家を出ると、忘れることが多いです。かなりふざけました

(前書き)

アクセスありがとうございます。

定期を忘れた。

寒さから身を守ろうと、色とりどりの雪だるまのように幅を取る群衆の列の中、一人、暑くもないのに背中に水を感じた。

改札へ続く何本もの列。

鞆の中を漁り続ける私を、後ろからの一歩が前へ前へと押し出す。

ああ、そういえば、昨日雨でケースが濡れたから、ドライヤーの横に置いたのだ。

分かってても、漁ることを止めない。

しかし私はもつと早く気付くべきであった。

探すよりも先に、このきつく固い線の中から、抜けることを。

近づく改札。

列を抜けようともがく私。

後方から感じる突き刺すような視線。

咳払い、舌打ち。

ああ、なぜ、気づかなかつたのだろう。

携帯のアラームがオフになっていたことに。もはや意味を忘れてしまっただけにすみませんを連呼して、込み合った列と列の合間をくぐり抜けた時、私は聴いた。

「ドアが閉まります、ご注意ください」

何故が入っていた、ケースなしの定期が、電光掲示板の黄色を浴びて、笑っていた。

(後書き)

御読了ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8979y/>

気付いたのは改札前だった

2011年11月26日23時52分発行